

学校だより



稲荷台

令和5年5月31日

6月号

横浜市立稲荷台小学校

『次の100年へ』の担い手

副校長 平本 美峰

夏を思わせるような暑い日差しにも負けず、子どもたちはたくさんの笑顔で学校生活を楽しんでいきます。いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

先日の日曜日に「第3地区ふれあい春まつり」がありました。コロナ明けの3年ぶりの開催ということから区役所の方は200人ほどの来校者を見込んでいたようですが、なんと500人を上回るたくさんの方が参加されました。地域の皆様が心待ちにされていたことが伝わってきます。今回の春まつりには、6年生の有志8人がボランティアスタッフとして主に西区の移動支援バス「おでかけ3」のブースで活動し、来場者をもてなしました。その感想を抜粋して紹介します。

- ・おでかけ3のチラシを配りました。もらってくれる人が多く、西区は優しい人が多いなと感じました。
- ・ボランティアが楽しかったです。おでかけ3のグッズを渡したりするのが楽しかったです。
- ・ぼくは、ボランティアで「おでかけ3」のアンケートを説明したりうちわを配ったりしました。お礼でお昼ご飯やかき氷を買いました。また、春まつりをやる時は、ボランティアをしたいと思います。
- ・私は、初めてボランティアをやりました。ボランティアによって楽になる人がいるんだなと思いました。だから学校などで、またやりたいと思いました。
- ・おでかけ3の接待は楽しかったし、説明するのも楽しかったです。勉強にもなりました。とてもいい経験になりました。また、行きたいです。
- ・春まつりで、チラシ配りのお手伝いをしました。がんばって大きな声で呼び込みました。参加して楽しかったです。
- ・春まつりに行ってボランティア活動をしました。アンケートをしてもらってうちわを配ったり袋を回収したりするお手伝いをしました。楽しかったです。
- ・春まつりで、いろいろな人が楽しめているのを見ました。学校を卒業しても春まつりに行きたいです。

子どもたちがスタッフの一人として真剣に楽しく取り組んでいたことが伝わってきます。それは、自分が人の役に立ち、頼りにされていることを実感したからだと思います。これまで何かをやってもらうことが当たり前だった子どもたちが、自ら動き、地域の方々と笑顔で触れ合っている姿に心が温かくなりました。また、この体験を通して地域の方々の温かさに触れ、改めて地域のよさを感じる機会にもなりました。今回の6年生のチャレンジは、社会参画への一歩であり、後輩につながっていくものだと思います。

人に喜んでもらう経験は、子どもたちの心を大きく豊かにします。この稲荷台の地域は、家庭・地域・学校の三者で子どもたちを見守っていて、『次の100年へ』へつながる地域の担い手を着実に育てていると感じました。学校生活の中でもバディ活動や日々の学習を通して、友達のために自分のできることを実践しています。頼もしい担い手たちのためにこれからも温かい応援をよろしくお願いします。